竹屋句集

下

吐月句集秋之部

立秋

秋ちかし井戸はまだ雪ぞ冷ゆ　汎

なごかるるきのふ乃海やけさの秋

お阿弥の眼ふさやうしろ今朝乃蝉

ちり秋や裏ちやき屋根の織

初秋ぞ價しさしり小角豆夢

秋立日男山まで

[illegible]

[illegible]やいつしか秋の起りし

一はなちそそのうきやるきゝ

流よりそよるすゝしさ河

主聖やそゝ[illegible]言のそゝけ

[illegible]乃果きき仲乃昌弘

習無う毋ゝ[illegible]

[illegible]きゝやきゝ定[illegible]言の[illegible]

聖乃[illegible]乃[illegible]言冒ゝう[illegible]

[illegible]腐和[illegible]

中元の日周年の[illegible]

[illegible]売つゝく中[illegible]樽の杖

下京へ和の[illegible]

[illegible]人き今[illegible]中[illegible]踊[illegible]

[illegible]

[illegible]の新[illegible]玉[illegible]
高原[illegible]もの[illegible]や[illegible]
風[illegible]一周忌
[illegible]ハつ[illegible]墓[illegible]
[illegible]の[illegible]物[illegible]
物[illegible]ハ[illegible]下源
中
[illegible]や今[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]ぬと今年中の秋
今物[illegible]源とハ[illegible]
中[illegible]
[illegible]中の[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

立癖死故兄吉兵衛角力の事
附あるものく人や相撲取
あらかたや湖水を出帆行帆
秋風や水に火をうつす人の色
曙も秋ハせりをうつす水
岡西平三郎の萩の花
町中を通る駕籠の音
江の月秋水に浮る駕籠哉

たのみなき時と云る中秋
秋雲
碁盤をもて行ひあり秋の蝶
夕蝉や秋ある松を家もなし
太平や蝿たつる秋の蝶
秋の蝶
一艘ながき秋の蝶
啄木や柳さくらも青さ

花野

[illegible]に心もとまるるのかな
[illegible]の枝ばかりぞ八花野の秋

千葉演

咲き出ぬかくや仲あを

雁

[illegible]や松をつたひかから
遠山は今さるまゝの小田の一

[illegible]や上地の橋石清水八
[illegible]ふるさと和泉京橋見かな

落

[illegible]ふるものは見落
[illegible]人乃ちるすきか
月[illegible]空ようこかぬ落葉
余乃葉[illegible]生ふる落葉

月

明月や英一句隈手峠
名月や宣長何く山玉川
蓋ふ見る松あるあり名の月
明月やさよし盗人ふかさる
二日月ありあり名の月
うき旅と宣長出り人南畝乃
旅ふ信世ふ賞名乃月
明月や重く世ふ爾ふ

家ふ家ふ動きふ家新月見の歌
月ふ宵行ふ松ふふ
京都や月ふふふ家
日光造営の時彫刻ふ
中秋名月
見て来ふを月ふ屋ふ日乃山ふ
お重八十男ふ
うつくし逢ふ地ふ月

布留の月は指さしてゆく画は
指さしてゆくしさしたる月の鏡の事

白嵐画讃

絵のごとくなる白きを月の嵐了哉
十とせあまりやまとしたの恵の梅
いさよひやうるはしきを立てかく
志きく人くいかるる棹さし
隅田川の月見渡りたる手ハ

いさよひや月のうるはしさを問ん

稲みのやけ方ハ又渡し書
窓ゆ羽州銭しる新田面ゆ
夜ゆ乃里ゆ出れる栗山ゆ
ゆ十ゆ上ゆ出ゆ雪ゆ戸
ゆ手ゆ出ゆ

炭

樵し初めかこせんもきまゝに
炭うの方をを月淺子炭の事
うの吉八皆子ゝ衣下
吉子子子ゝ樵ぬ恋ゝ炭ゝ

風鈴乃吉ハ絶なゝ初ゝ
草物や人乃詠り人ゝ詠

百生ゝゝゝゝ蔓ゝつゝ
宗任子宗行同人梅ゝ
末林や乃ゝゝ卧狀の事詠
ゝゝ樵ゝゝあゝ新ゝ

菜

ゝゝ子老ゝあゝく子ゝ
あゝゝゝ菜の心ゝあゝ
別事と吟ゝつゝあゝく花

[illegible]

白波をかけて

芳野山のふもとの峰

きをつくす花盛なるぬ人心

十三夜

江をさす尾上の鴨やほのぐ

高尾の山とふる和歌月見の事

かふうえ多やえん信の月

鹿

鹿乃声や小さくめぬ妹背山

夏草をえん立も妻さん岩の鹿

恋をしたる木の陰なるん鹿乃角

青いもの持めさしし木綿云

新ちゝ形きもの花や神の子

花垣を小ぐらく雪の初紅葉

蔓仲乃伸乃葉乃繁乃

刈秋

見くとも小田刈秋乃時の事

刈秋やもしも留まる須戸の森

立庵し臥猶し秋乃哀乃

吐月句集乃之部

時雨

業を仏と菜と菜か一と初時雨

月し又やもしらぬ陸乃やもしらぬ秋

さくさくと白業や初時雨

危かへぬ豆腐し時雨さるる哉

市中やさくさめ新金八詮

小春

蝶すがりて花ちるまで小夜ふけぬ

蕉中

里〻千宮士のたまをぬ小夜の神

遠賀の御孫を賀す

笑ひつゝ入りや小夜ふけ男少

精金極

留まるまをよろし神無月

是ぞ風呂焚ふる秋十柳の神

白中子の危ぶ影さ

ゑとしたし一葉小家村や烏瓜

まつ〻ぶやゆ宮居の系も皆ゆ

ひ上ぶをもうつ〻ぶ云ひ柳ぶ

かく塗るあ小〻さよ義の葉

大きぶぶやぶ芭蕉ふ影る芭蕉

ひ切やぶ小のあよふぶやの乗

啄木乃ふ〻のく来ふりかゝる花

下駄をはきて
山茶花やまるとなれなるさまの
ものなるこころの時雨なる巨燈の影
雲の為ふさぎ
凍鐵の岩百くや石蕗の花
寺建て
うきくに
棟に行

千鳥

汐曇れ難のうへみちとまれ
押しすゝむ波にも千鳥かな
足ぬらす一羽に見る浦ちとり
むらちとり影千寄る朝日哉
鼓して波すちさへし川衛
炭竃や人呑む筏雲の松
惜み後しき月和よし　乙藤

老アハさらし聴るや若葉木槿

冬籠

氣手月和らして冬籠

天あれは地あり花あり月あれは
雪あり是れして生有ものをなく
さむ事の中間よりも法味あり
よく人千まし心てえしらす
味かはつきりなき岩木の岸手

はるゝ咲ぬよりあるさくらのよる雨
ちる枝を住すまあハ爲よ家ゝ
笠ぬしの乃里ハ住森しかゝる
袖をさしぬるさりや妹ゝ垣根の
たゝさまぬしハ住ぬよハ心をの
まゝの秋よさめてとうちうな
つうまこゝもいとゝ和ゝ仏也や
すゝんまさんあるの岡ハ人ゝいハ
きくや末の百かゝまの月とうに

ゝのりゝの岩つのなゝき竹し
あゝ名ゝ手こゝろ何のとう恨
久ん侍よゝしろむくゝをあや
しゝ岩山ゝさしあゝ林く
多ゝぬしゝ又さり たゝ岡面と
きけんゝゝきゝゝろく新侍と
よゝさみゝゝもあゝてゝよき
さいのぬひ有なゝ仏

うこかぬゝ佛心を表す

橋越路の在よりうゝ表の

羽翼し空花果を表す

空和

梢より代々の家

寺橘子老武記さ

家の古家飛よ樵夫和歌

古の家を菜よ吟ずる歌

雪まくさ言なき里の雪の家

家となる寺と米を食ふ語

木の枝子菜は銭を表す

志ホ河や子をの中よ吹禁を

表をようかと賊らえ水を

表を乃家士引よをく枕事

鶯聲に志ゝあるゝ月秋は
野ゝちゝとゝの冨厭と出よ後也
嘆月に暮花ゝみや細代る
テてある居雲呂桶の言ゝ弟
香との干葉にたゝぬ小家は
姿鏡に絶て久しお香子は
かたとゝや千歳けて秋家の忘
影見世やむと秋まゝる藤や蓮

鶏鶏に收秋志ゝ新冬露は
冬ゝ乃秋や乃まゝ影乃人無
夷家秋讃見し果報冬月
面と見老人の寿之小秋神楽
禱花や二日さきまて使ゝきん
かゝれ家千年の五ゝ家約一霊ゝ
八年かしゝ聖の秋袖や鉢ゝまよ
志りゝくハ暮てかゝん暗色

風や土手吹入あいさつ松

さゝの葉や野の毛ちらす市の中

こがらしや淀伏見の家ならべ

枯野堅

枯〳〵や富士と孤毛世古小

屋枯ものもるはちすの枯世原

引汐干深し孤〳〵枯野の水

見〳〵と空遠枯野枯世哉

枯芦や日をかくしたる鶴ぶ

芦かれ〳〵深し雀孤あり小

水鳥

引汐乃ちらす鶴ぶ水市

原ものもふしたるかれ水

浪をもる〳〵水ゝ臥や魚の居

水ゝと寒よ解屯のあ屯ち

[illegible]を悼

[illegible]八琴[illegible]
[illegible]羅乃日[illegible]
嘆や湖水[illegible]星[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

雪

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]谷中の[illegible]

[illegible]
[illegible]
大津絵鬼の念仏乃歌

[illegible]
仏名[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
松[illegible]
[illegible]
遠浦乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]中の[illegible]
[illegible]の[illegible]

むつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

家よりもの馬あるよく身を
はこべばはこべば六十余年経よ
くばくばくばくばくばくばくばくば
なるべき花の業をなすなの
駄八人分口不銭五百五
十銭二千余年を
ふるつ人を家ありた
馬のあやまち

東都書肆

本所三丁目
西村源六梓